BrightPath Biotherapeutics Press Release

2017年10月4日

各　位

会 社 名　ブライトパス・バイオ株式会社
代表者名　代表取締役社長　永井　健一
(コード番号：4594 東証マザーズ)
問合せ先　取締役管理部長　酒井　輝彦
(TEL.03-5840-7697)

順天堂大学との共同研究開始に関するお知らせ

この度、当社連結子会社の株式会社アドバンスト・イミュノセラピーと、学校法人順天堂（以下、順天堂大学）との間で、当社グループが研究を進めるrejT（rejuvenated T cell therapy：iPS細胞由来若返りCTL※1療法)の臨床応用を目指した共同研究契約を締結したことをお知らせいたします。

当社は、2016年12月の株式会社アドバンスト・イミュノセラピーの子会社化を通じて、中内啓光東京大学医科学研究所特任教授兼スタンフォード大学教授らが開発したrejT療法技術を導入し、東京大学医科学研究所と共同研究を行っており、臨床応用に向けて、臨床研究施設を含む研究開発基盤を整えていく段階にあります。

順天堂大学はその豊富な臨床力を活用し、ゲノム医療、再生医療を通じて医学の進歩に貢献する施設として 2016 年7月に「難病の診断と治療研究センター：難治性疾患・再生医療実用化研究室」を開設しました。200 ㎡の広大なセルプロセッシングセンター（CPC）※2は、無菌製造設備として最も清浄度レベルの高いグレード A 環境を実現し、複数のプロジェクトにおける橋渡し研究遂行の場として大きな推進力となっています。

この度の共同研究契約締結により、これまで中内教授らとともにrejT療法の開発を進めてきた順天堂大学大学院医学研究科の安藤美樹准教授（兼東京大学医科学研究所幹細胞治療部門 非常勤講師）と EB ウイルス※3関連リンパ腫に対するEBウイルス特異的rejT療法の医師主導型臨床研究を進めてまいります。

なお、本共同研究契約の締結による当社の平成30年3月期の業績に与える影響は軽微であります。

以上

【語句説明】

※1 CTL：Cytotoxic T Lymphocyte（細胞傷害性Ｔ細胞）。リンパ球のうちのＴ細胞の一種。細胞表面のＴ細胞受容体を通じて、樹状細胞等の抗原提示細胞から提示された異物を特異的に認識し、同じくその異物を表面上に提示しているウイルス感染細胞やがん細胞を認識し、細胞傷害物質のサイトカインであるパーフォリンやグランザイムなどを放出したりすることによって、殺傷することができます。以前はキラーＴ細胞とも呼ばれていました。

※2 セルプロセッシングセンター（CPC）：細胞培養加工施設。細胞治療、再生医療に用いるヒト細胞・組織の調製に必要な機器と、製造工程の管理及び環境をモニタリングするためのシステムを備え、再生医療等安全性確保法における細胞培養加工施設の構造設備基準に適合した管理運営が行われています。

※3 EB ウイルス：エプスタイン・バール・ウイルス。EB ウイルスはヘルペスウイルスに属し、ほとんどの人が感染しており、その一部がヒトに腫瘍を発生させます。1964 年に Epstein と Barr によって発見されたヒトの腫瘍から見つかった最初のウイルスです。

ブライトパス・バイオ株式会社について

手術、放射線療法、化学療法に次ぐ、がんの「第４の治療法」としてがん治療の革新をもたらしつつある「がん免疫療法」の開発を行う創薬ベンチャーです。国内と米国で臨床試験を実施中のがんペプチドワクチンをもつほか、抗原特異的Ｔ細胞を iPS 化し再生させる新たなＴ細胞療法、また世界的に新規性の高いアプローチであるネオアンチゲン（腫瘍特異的遺伝子変異抗原）に関わる新薬を開発しています。